



平成30年度 東京工芸大学・風工学共同研究拠点・公開研究会のご案内

## 「日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究」

小規模ではあるが激甚被害をもたらす竜巻等に対する個人や行政レベルの対応、あるいは構造物の耐風性や設計上の考え方については、米国等に比較してわが国の状況は極めて不十分です。

陸上に被害をもたらすような竜巻は年間 25 件ほど発生しますが、顕著な影響は極めて限られた時空間的に現れるため、実態の把握が難しく、さらに竜巻発生の実態把握を的確に行うためには、竜巻の特徴を的確に表す分類評価を実施する必要があります。1971 年に藤田哲也により提案されたフジタスケールは、その簡便性から世界各地で使用されましたが、被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘され、米国では 2001 年頃から従来のフジタスケールに対する見直しが始まり、現在は改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が用いられています。日本においては 2015 年 12 月、気象庁から米国の EF スケールに相当するものとして「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」(JEF スケール)が策定され、2016 年 4 月から運用されています。本研究会では、これまでの運用状況をまとめ情報交換を行い、「日本版改良藤田スケール」の理解と運用に寄与することを目的といたします。奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

奥田 泰雄 (建築研究所)

開催日時：2019 年 3 月 22 日 (金) 10:00~12:00 (開場 9:40)

開催場所：田町スクエア 会議室 (日本建築学会 建築会館の隣ビルです。)

参加申込：当日会場にて受付いたします。その他、お問い合わせは、東京工芸大学 風工学研究拠点 事務局 TEL：046-242-9658 までお願いいたします。

### プログラム

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| 10:00~ 趣旨説明              | 建築研究所 奥田 康雄  |
| 10:10~11:30 関連研究の紹介      |              |
| 1) 平成30年度の研究成果の概要        | 気象庁 村井 博一    |
| 2) 建築物のD I のDOD見直しについて   | (建築研究所, 国総研) |
| 3) 工作物・車両D I のDOD見直しについて | 東京工芸大学 吉田 昭仁 |
| 4) 電柱D I のDODについて        | 高知大学 野田 稔    |
| 5) 飛来物等による風速評価の試み        | 東京工芸大学 松井 正宏 |
| 11:30~12:00 総合討議・まとめ     |              |